

# 医療事故防止にむけて

～ 薬剤科の取り組み～

医療法人久仁会 鳴門山上病院

薬剤師

青山智子

三原由加里

赤井友美

近藤結理香

奥谷綾子

賀勢泰子

# はじめに

昨今医療事故が新聞紙上を賑わせているが、医療事故は人命に関わる重大な事故に繋がりがねない。医療事故防止は病院全体で取り組むべき問題と考え、当院のリスクマネジメント委員会でも検討と改善を図っている。

医薬品に関連した事故防止にむけて、我々薬剤科において実施した事例およびその評価について報告する。

ポカ除け

## エラープルーフ化対策立案ガイドライン

EP化原理	ミス対策	記憶上のミス	外部情報 受取上のミス	動作上のミス
代替化	完全代替化	連結	機械化	
	一部代替化	指示と記録	見本とゲージ	ガイド
容易化	共通化 集中化	規則化 グループ化	統合と対象化 現物との整合化 分業化・専門化	均一化
	特別化 個別化	注意喚起	ラベリング	動作方法の 特殊化
	その他の容易化	記憶量・ 時間削減	表示方法の 適正化	作業対象 空間適正化

# 目的・方法 1

医療事故に繋がる危険性のある以下の項目に関して改善を図ることとした。

## 1. 医薬品の規格誤り,取り違いによる事故 「インスリンの統一規格導入に関して」

インスリンは、平成16年3月末をもって100単位/mlへ規格が統一される事となった。40単位/mlおよび100単位/mlの規格の違う医薬品が院内に混在するのは医療事故の原因と成りうると考え、採用品目の見直しを行った。同時に、在庫および使用量を把握し、現場の意見を参考にしながら院内一斉に40単位/mlから100単位/mlに切り替えた。

患者様の在宅復帰を考慮し、個々に使用方法の説明を繰り返し、ペンタイプインスリンへ切り替えた。

## 目的・方法 2

### 2. クロスコンタミネーションの防止

#### 「プロカテロール吸入液に関して」

プロカテロール吸入液は30mlの瓶入りを採用し、病棟単位に薬品設置としていた。開封後の汚染を考慮し、使用后10日で廃棄処分していたが、プロカテロール吸入液ユニットが発売されたのを期に1ユニット0.3mlタイプを採用し、1回毎の使い切りとした。

### 3. 医療器具に関する事故防止

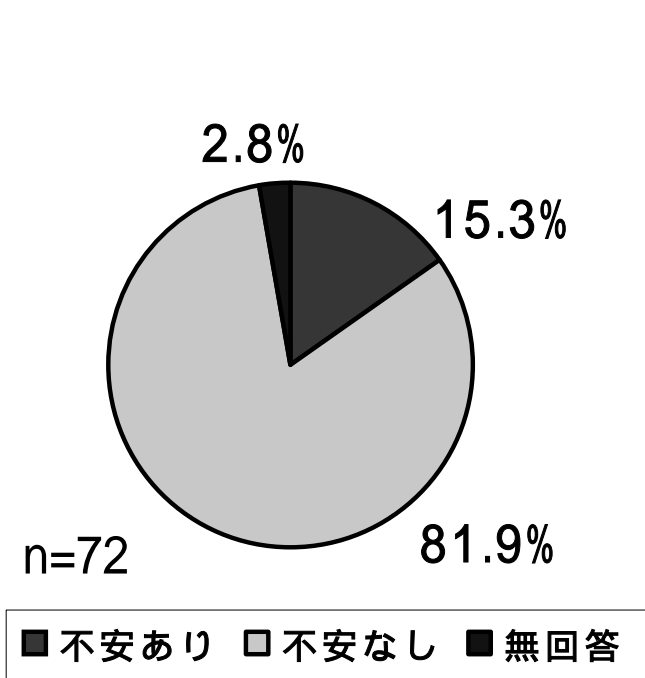
#### 「経管栄養チューブの誤接続防止に関して」

経口にて服薬困難な患者様は、従来より簡易懸濁法を取り入れていたが、注射ラインと同サイズの経管栄養チューブを用いていた為、誤投与の可能性があった。そこで経管栄養専用のチューブの見直しを行った。

これらの医療事故防止対策の実施後に、看護師対象にアンケート調査を行った。

## 結果 1 -

# インスリン統一規格に 対する不安

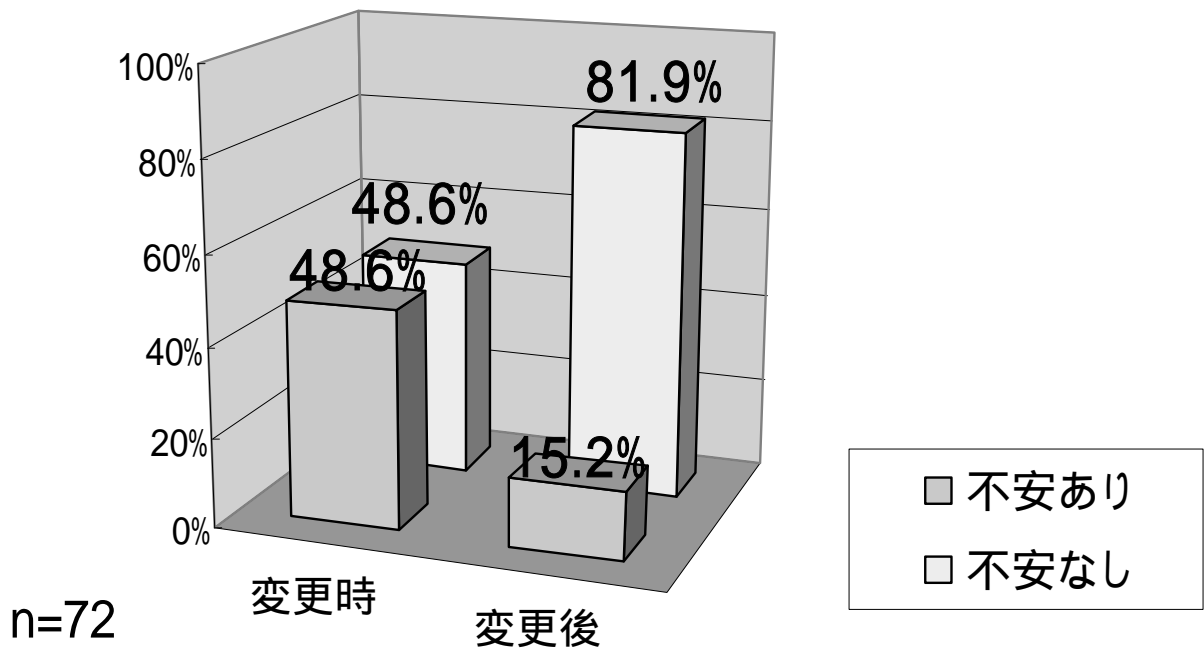


インスリンの規格単位統一(100単位/mlのみ)にあたり、不安を感じなかったものは81.9%、何かしら不安を感じたものは、15.3%であった。

100単位専用のマイジェクター導入により、規格統一後も投与単位の誤りは発生しなかった。

## 結果 1 -

# ペンタイプインスリンへの変更に対する不安の推移



ペンタイプインスリンへの変更で不安を感じたスタッフは48.6%であった。

### 不安の内容

(重複回答あり)

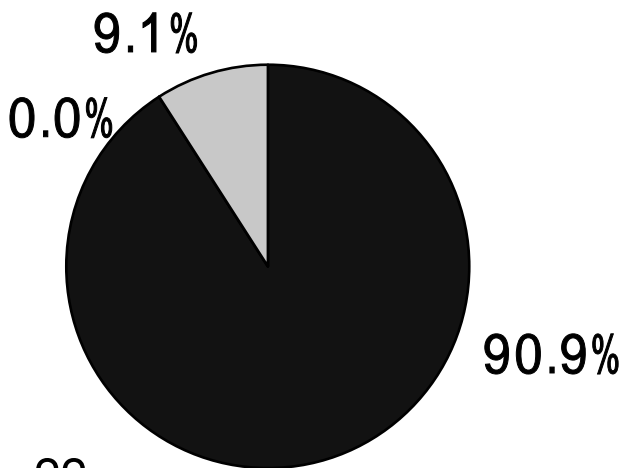
操作誤り	18人
患者様への取り扱い方法の説明	12人
単位設定間違い	8人
その他	7人
無回答	6人

薬剤師の関与により変更後1ヶ月経過時には15.2%に減少した。

## 結果 2

# プロカテロール吸入液ユニットが採用されてよかったか

プロカテロール吸入液ユニット使用病棟において



■ よかった ■ よくなかった □ 無回答



### プロカテロール吸入液ユニットの好評な点

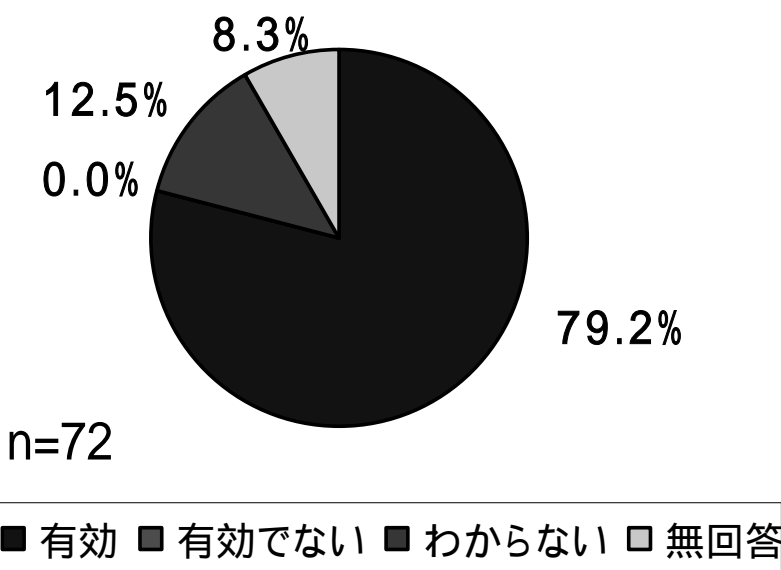
(重複回答あり)

- 取り扱い方法の簡便さ・・・18人
- 投与量の誤りがない・・・14人
- クロスコンタミネーション防止・・・3人
- その他・・・1人

廃棄残液の減少によりコスト削減にも繋がった。

## 結果 3 -

# 経管栄養チューブの変更は誤接続防止に有効か



誤接続防止タイプ  
経管栄養セット

経管栄養チューブの変更が誤接続防止に有効と答えたスタッフは79.2%であった。

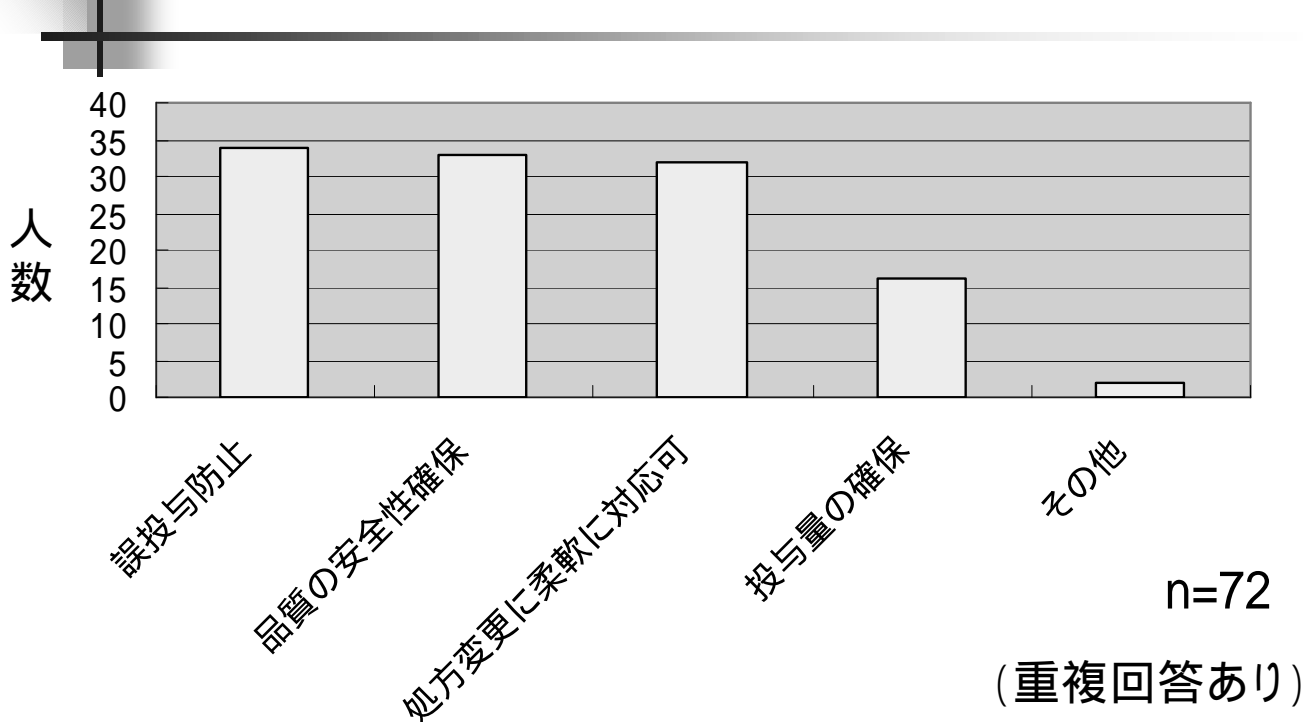
注射ラインと栄養チューブ内径・ラインの相違、シリンジの色による識別を容易にすることにより事故防止効果が得られた。誤接続防止タイプの経管栄養チューブは数社製品を試した結果、T社製品を最適と評価し採用した。

ただし、一部の薬剤では、専用シリンジに関して改良が必要との意見が聞かれた。



## 結果 3 -

# 簡易懸濁法のメリット



### 粉碎法と比較したメリット (アンケート結果より)

- ・投与直前まで薬剤の確認可能なので誤投与防止できる
- ・吸湿・変色を防ぐので品質の安全性が確保できる
- ・粉碎の場合、1剤変更でも全薬剤が廃棄となるが、柔軟に処方変更に対応できる
- ・分包紙内のロスがないので投与量が確保できる

# 考察・今後の課題

医療事故防止の為には常にミスは起こりうるという認識で組織的に対応することが必要である。ミスの発生確率を下げるためにはその要因の科学的分析と予測的エラープルーフ化が有用である。

医療事故防止を目的とした今回の取り組みは、いくつかの課題を残したが、概ね効果的と評価された。薬剤に関連する事故防止には、きめ細かな対応と医療スタッフの連携がスムーズに行われる事が重要な要素であった。

今後も、医療スタッフの一員として、さまざまな場面で医療事故の防止に取り組みたい。